

## 剣岳遭難(2007年9月)

剣岳～仙人池へ計画した59～69歳の8人パーティー。小雨、ガスにより視界不良で「三ノ窓」付近で道に迷ったと携帯電話で救助を求めた。装備が比較的充実していたので天候回復するまで現場で待機するよう指示があった。ヘリコプターで救助したが、遭難者がいた場所は「三ノ窓」ではなく「小窓」であった。



## 解説

剣岳～仙人池は上級者向けのルートである。遭難報告書では、

《遭難事故の原因》

- (1) 剣山頂から北方稜線は上級者向きコースにもかかわらず、ルートを熟知していなかった。
  - (2) 池の谷乗越通過以降、ルート上のポイントを確認していなかったため、現在地点がわからなくなり、道迷い状態となる。(2万5000分の1の地形図は持っていたが確実にチェックしていなかった)
  - (3) 小窓のコルまで行ったにもかかわらず、三の窓と誤認したため自力での脱出の方法を見つけることが出来なかった。
  - (4) メンバーの年齢構成から判断してルート選定に無理があった。
- とある。

今回、道迷いで掲載させていただいた理由は、現在位置を把握していなかったことにより、自力の脱出方法が見当たらなかったからである。この事例では、救助を求めた事は正解だったと思っている。やはり、上級者ルートはそれなりの技術を付けてから望みたい。

豊川山岳会の代表からは、「自分が若い時に、先輩から『困難は克服し、危険は回避せよ』と言われて育ったので、会の皆さんも肝に銘じてほしい」といわれている。